

令和 6 年 5 月 7 日現在

機関番号：13102

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2020～2023

課題番号：20K01909

研究課題名（和文）創発的ビジネスモデル・イノベーションの知識創造・戦略形成プロセス・マネジメント

研究課題名（英文）Emergent business model innovation

研究代表者

伊藤 嘉浩（Ito, Yoshihiro）

長岡技術科学大学・工学研究科・教授

研究者番号：60436235

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,300,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の目的は、独自の創発的ビジネスモデルのイノベーションに関する理論構築を、これまで得た豊富な質的データを用いて、行うことであった。その結果として、創発的ビジネスモデル・イノベーションの複数事例分析法を用いた論文を作成して、海外の学界等からのコメントを得て、数回の大幅な原稿修正を行い、研究水準を国際レベルにすることが出来た。また、ビジネスモデルの数理的分析の成果として、ポケモンGOのビジネスの分析を行った英文論文を有力国際学術雑誌に出版することが出来た。さらに、ビジネスモデルの総合的な研究成果を400頁を超える単著として出版することが出来た。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の成果の学術的意義は、今日重要性が非常に高いビジネスモデルおよびそのイノベーションの研究成果を、大著にまとめて、学界とともに国内の社会に伝達・普及させたことである。例えば、CiNiiでは92の大学図書館でこの著書が所蔵されている。また、ビジネスモデル分析の研究成果を、有名な国際英文学術雑誌に掲載できたことは、本研究が国際的レベルである証拠である。さらに、有名なイノベーターズ・ジレンマの定式化を実現したことは、学术界は勿論のこと、さらに今後のビジネス社会へ大きく貢献するものである。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study is to build theory about the emergent business model innovation.

As the research results, I have made the manuscript to build the theory of emergent business models, and I have published a paper about PokemonGO business model on a international journal. And I have published the book about business model in Japanese.

研究分野：経営戦略

キーワード：経営戦略 ビジネスモデル ビジネスモデル・イノベーション 創発的ビジネスモデル

様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

1. 研究開始当初の背景

研究開始当初の背景として、国際な企業間競争において、ビジネスモデル戦略とそれを創造するビジネスモデル・イノベーションの重要性が非常に高くなっていった。例えば、GAFAM(グーグル、アップル、フェイスブック、アマゾン、マイクロソフト)と呼ばれる米国巨大IT企業は、ビジネスモデルの類型の中で特に競争力を有するプラットフォームのビジネスモデルをうまく生かして世界的な企業になり、市場を独占した。特に、日本企業は、欧・米・中国の有力企業に比べて、この点で大きく見劣りしており、これが日本企業の凋落の要因の1つと考えられた。このようなIT業界だけでなく、日本が得意としていた製造業においても、製品の単品販売からビジネスモデルへの転換に成功した企業が多いドイツと対照的に、ビジネスモデルへの転換がなかなか進まずに、世界のなかでのポジションを大きく落としてきた。

このため、海外企業に勝つためのビジネスモデルのイノベーション・マネジメントの有効な理論の構築が必要であった。しかし、世界的に見てもまだ、そのような理論構築は完成したものは存在していなかった。

2. 研究の目的

本研究の目的は、このような背景に基づいて、日本企業の国際競争力向上に資するような、ビジネスモデル戦略およびそのイノベーション・マネジメントの国際的に通用する理論を構築することであった。このために、代表者が企業等への聞き取り調査を行って、蓄積してきた豊富な質的データを用いることであった。

特に、本研究独自のビジネスモデル・イノベーションの概念として、事前のビジネスモデルの計画だけではなく、事後にビジネスを行いながら、現場から創造されるビジネスモデルとして、創発的ビジネスモデルを用いて、プロセス理論を構築することであった。

また、この研究の基盤となる経済理論を用いた各種ビジネスモデルの定式化や事例分析も並行して行っていくことも本研究の目的に含めることとした。

3. 研究の方法

研究方法は、上記のように、企業や公的組織への多数の関係者69名への聞き取り調査で得た豊富な質的データを用いて、プロセス理論を構築することであった。そのために、質的データによる理論構築の世界標準の方法であるグラウンデッド・セオリー・アプローチを用いた。

また、この理論構築と並行して、その基礎となる、ビジネスモデル戦略の分析も質的な方法と定式化の方法の両方を用いて行った。

4. 研究成果

上記の目的と方法に対して、真摯に研究に取り組んできた結果の研究成果として、次の5点の研究成果を得た。

1つ目として、これまでの10年間のビジネスモデル戦略、ビジネスモデルの競争戦略、およびビジネスモデル・イノベーションの代表者の論文14編を大幅に加筆編集して、ビジネスモデルおよびビジネスモデル・イノベーションの総合的な専門書を出版することができた。これが、『ビジネスモデル創造企業』(全408ページ)である。これにより、学界のみならず、国内の実務家等に広く社会に研究成果を伝達・普及させることができた。

2つ目として、この著書の執筆を通じ、さらにその後、このビジネスモデル・イノベーションの研究成果をもとに、理論構築を行った1編の英文論文の原稿を作成することができた。そして、この論文原稿について複数の海外の専門研究者によるコメントを得て、フィードバックを行い、この理論構築に関連する研究ノウハウを習得することができた。これは継続して、今後の研究に役立つものである。

3つ目として、ビジネスモデル戦略の定式化研究として、人気ARゲームのポケモンGOの企業との共同マーケティング活動を混合バンドリングの理論を用いて定式化分析を行った論文を中堅国際ジャーナル(インパクトファクター2.8)に掲載することができた。

4つ目として、上記の研究を行っていく過程で、以前から長年思考してきた有名なイノベーターズ・ジレンマの定式化を実現するアイデアを考えつき、論文化することに成功した。その結果として、その英文ワーキング・ペーパーを公開することができた。

5つ目として、代表者のこれまでの研究成果とその経緯について、日本経営学会全国大会で基調講演を行い、この内容をさらに加筆した招待論文を日本経営学会誌にて公開することができた。

以上の研究成果により、本研究の目的をおおよそ達成することができた。まだ残された内容については今後継続して達成したい。

また、本研究を踏まえて、今後の研究の方向性として、プラットフォーム・ビジネスの競争戦略の分析や独自の理論構築を目指したいと考えている。なぜならば、前述したGAFAMなどの世界的なITプラットフォーム企業の世界的な市場独占が大きな経済問題となっており、各国政府が

これを法規制する大きな動向が生まれつつあるからである。このような、経営学と経済学に、法学の観点から、今後プラットフォーム・ビジネスの研究をこれまで以上に発展させていきたいと考える。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 Ito, Yoshihiro and Noda, Hideo	4. 巻 91 (1/2)
2. 論文標題 A theoretical basis for a sponsored location program as a form of joint marketing: a mixed bundling model approach	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 International Journal of Technology Management	6. 最初と最後の頁 133-144
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 伊藤嘉浩	4. 巻 53
2. 論文標題 私のイノベーション・マネジメント研究の最前線	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 日本経営学会誌	6. 最初と最後の頁 52-62
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 2件/うち国際学会 1件）

1. 発表者名 伊藤嘉浩
2. 発表標題 私のイノベーション・マネジメント研究の最前線
3. 学会等名 日本経営学会全国大会基調講演（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Yoshihiro Ito
2. 発表標題 How novel strategic elements emerge and become integrated with previously-plane business models.
3. 学会等名 Journal of Management Studies paper publishing workshop in Japan（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2024年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 伊藤嘉浩	4. 発行年 2021年
2. 出版社 中央経済社	5. 総ページ数 408
3. 書名 ビジネスモデル創造企業	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分担者	殷 勇 (Yin Yong) (50344776)	同志社大学・ビジネス研究科・教授 (34310)	
研究 分担者	野田 英雄 (Noda Hideo) (90347724)	東京理科大学・経営学部ビジネスエコノミクス学科・教授 (32660)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------